

# 中期目標検討委員会（3/27）世界モデルの本分析結果（2020年）概要

＜RITEによるまとめ 2009年3月30日＞（1 / 2）

		限界削減費用	2005年比 (%)			1990年比
			GHG削減率	エネ起CO2削減率	5.5ガス削減率	GHG削減率
EU : 1990年比-20%	RITE	48 \$/tCO2	-10	-6	-4	-16
	国環研	20 \$/tCO2	-12	-11	-1	-17
米国 : 1990年比±0%	RITE	47 \$/tCO2	-14	-9	-5	0
	国環研	65 \$/tCO2	-13	-12	-1	0

日本の費用は相当高い

GHGで見ると、選択肢③  
が削減率でも同等レベル

エネ起CO2だけを見ると、選択肢②  
が削減率でも同等レベル

日本：中期目標検討委員会 選択肢②、③、⑤（1990年比±0%～-15%）

		限界削減費用	2005年比 (%)			1990年比
			GHG削減率	エネ起CO2削減率	5.5ガス削減率	GHG削減率
② ±0%	RITE	90 \$/tCO2	-6	-9	+3	0
	国環研	130 \$/tCO2	-11	-11	0	-3
③ -7%	RITE	130 \$/tCO2	-13	-16	+3	-7
	国環研	190 \$/tCO2	-15	-15	0	-7
⑤ -15%	RITE	285 \$/tCO2	-20	-23	+3	-15
	国環研	295 \$/tCO2	-22	-22	0	-15

世界モデルによる分析からは、②～③の選択肢が妥当な範囲と見られる（ただし現実的には京都目達計画の90年比▲1～▲2%（2005年比▲8～▲9%）を下回ることは最低限必要）。それでも日本はエネルギー効率が他国よりも高いことなどから、排出削減費用は、EU、米国よりも圧倒的に高い費用となり（国環研の分析も同様の結果）、対策は大変困難であり、国内のみで達成することは難しいかもしれない。

# 中期目標検討委員会（3/27）世界モデルの本分析結果（2020年）概要

＜RITEによるまとめ 2009年3月30日＞（2 / 2）

## － 仮分析（1/23）からの分析結果の変更 －

			限界削減費用	EU、米国、附属書 I : 1990年比 (%)			限界削減費用均等時の 日本 : 1990年比 (%)		
				GHG 削減率	エネ起 CO2削減率	5.5ガ ス削減率	GHG 削減率	エネ起 CO2削減率	5.5ガ ス削減率
EU : 1990年比-20% (海外クレジット 4%相当見込)	RITE	仮分析	53 \$/tCO2	-14	-10	-4	-	+7	-
		本分析	48 \$/tCO2	-16	-7	-9	+4	+7	-2
	国環研	仮分析	50 \$/tCO2	-14	-11	-3	+1	0	+1
		本分析	20 \$/tCO2	-17	-11	-6	+4	+7	-3
米国 : 1990年比±0%	RITE	仮分析	54 \$/tCO2	0	+1	-1	+9	+7	+2
		本分析	47 \$/tCO2	0	+5	-5	+4	+7	-2
	国環研	仮分析	100 \$/tCO2	-2	-2	0	-2	-2	0
		本分析	65 \$/tCO2	0	+2	-2	+1	+4	-3
附属書 I 国 : 1990年比-25% 限界削減費用 均等化	RITE	仮分析	108 \$/tCO2	-25	-19	-6	-	-1	-
		本分析	88 \$/tCO2	-25	-16	-9	+1	+3	-2
	国環研	仮分析	1800 \$/tCO2	-25	-	-	-12	-	-
		本分析	130 \$/tCO2	-25	-18	-7	-3	0	-3

RITEは仮分析においては、5.5ガスの分析結果は国立環境研提供の数値を利用していた。本分析においてはRITE独自のモデル（USEPA準拠）を利用。RITEにおける仮分析と本分析の差異の大部分はこの変更によるもの。国立環境研の本分析は、仮分析から大きく変更がなされ、RITEの分析に近いものに修正となった。